

電子や環境・医療拡大

セーレン車資材依存を脱却

セーレンは事業ポートフォリオの多様化を推進する。現状の営業利益の過半を自動車シート素材など車資材部門に依存する体質を転換し、エレクトロニクス・環境・生活資材・メディカル・バイオ分野を伸ばす。これで安定的な収益の拡大につなげる。

100万円、その他5億4200万円だった。車資材部門は自動車シート素材をグローバルに展開し、世界トップの17%シェアを持つが、足元のよくなる自動車の世界を200億円、19年度比

DF設 期内に計画決定

増 クレハLiB向け需要増

クレハはフッ化ヒリデン樹脂(PVDF)の能力はホリマー換算で、中国・常熟工場が5千トンの増産を検討している。立地は原料を手に入りやすい需要地、中国を有力候補に挙げている。クレハは正極用バインダー向けPVDFの2大メーカーの1社。韓国・

GHG8割減目指す

宇部興産 50年環境ビジョン

宇部興産は自然と調和した企業活動の推進に向け「UBEグループ環境ビジョン2050」を策定した。2050年までに温室効果ガス(GHG)排出量の80%削減を目指す。環境負荷の低減と技術の開発、供給を通じたサプライチェーン全体のGHG削減にも貢献していく。

同社は事業の構造からGHG排出量が多い。18年度実績はエネルギー起源、非エネルギー起源の合計でCO₂換算1200万トンだった。GHG排出量は30年度までに17%削減し、さらに①一層の省エネ化やエネルギー単位の改善、②廃棄物のエネルギー化促進と再生可能エネルギーの利用拡大、③化石資源に依存する事業構造の再構築も視野に入れた施策の検討(④CO₂回収・利活用)を中期経営計画で三つ

土浦でOPP増設

東 車載コンデンサー用、22年

東レは茨城県の土浦工場2号棟延伸プロジェクトで、車載コンデンサー用OPP増設を進めている。OPPの主力用途であるフィルムコンデンサーは家電・IT機器向け電子部品で、xEVのモーターを駆動させるパワー

営業利益 今期21%減を予想

三菱ケミカル 学 コロナやメタノール安

三菱ケミカルは、20年度売上高が前年度比5%減の5800億円、営業利益が21%減の270億円になると想定している。新型コロナウイルスの影響は主に販売減で営業利益を約100億円押し下げる要因になると想定。新型コロナウイルスの影響は主に販売減で営業利益を約100億円押し下げる要因になると想定。新型コロナウイルスの影響は主に販売減で営業利益を約100億円押し下げる要因になると想定。

ヘルスケア成長加速

トクヤマ ICTにも積極投資

トクヤマは、新型コロナウイルス感染症の20年度営業実績への影響は「第2四半期(7~9月)には改善に向かい、第3四半期以降は影響なし」と想定している。これに基づき、通期業績は売上高を19年度比2%減の3100億円、営業利益を18%減の280億円と予想している。

(PC)、メタシレンジアン(MXD)などの販売が減少する。一方、スマートフォン用高機能小型カメラレンズ材料の特殊PC、半導体向け製品(超絶絶水化水素銅張層板)の販売は好調を継続し、利益を押し上げる。20年度平均の原油価格前回は1バレル38ドル(19年度は60ドル)で、原油価格が営業利益を約40億円押し上げる要因になると想定している。経常利益予想は16%減の260億円。4部門別の内訳は天然ガス化学品が18億円の損失(19年度は57億円の損失)、芳香族化学品が46%減の56億円、機能化学品が13%減の194億円、特殊機能材が16%減の49億円。

高耐電圧化という相反する性能を両立できるフィルムとして高く評価されている。車載コンデンサー用フィルム市場でトップの約60%のシェアを有する。xEV市場は環境規制の厳しい欧州や中国を中心に年率約20%の高成長が見込まれ、車載コンデンサー用OPPの需要も大きく拡大する見通し。東レは土浦工場に年1万5000トンのフランス子会社TEEに1万9400トンの米国子会社PAに4万5000トンの合計8万4400トンのOPP生産能力を有し、コンデンサー向けのほか一般工業用、包装材料用にもOPPを販売している。TPAは主に食品包装材料向けの需要増に対応し、年内に3万トンの新設備を稼働する予定。

社長に大田氏

新生 ENEOS



大田勝幸氏

ナフサクラック稼働率は80%を割り込むが、一誘導品設備の稼働状況やお客様の動向を把握しながら、トラックの稼働をコントロールする(中島一常務執行役員 構)。三菱ケミカルHDの石化部門の営業利益予想は130億円の赤字。新型コロナの影響と在庫評価損の拡大と販売減を盛り込み当初予想から159億円下方修正した。石化部門は新型コロナの影響で99億円の減益要因を見込むが、営業利益が9%増の260億円と3年ぶりの増益を予想する。MMのアジア価格が上期に1ト1400円から1500円へ上昇し、下期に1800円へ上昇することを前提とした。

ナフファイバーと化粧品用素材に関する業務提携契約と代理店契約を締結した。今後はカニ殻由来の新素材「マリンナノフアイバー」のマーケティング活動に乗り出す。同素材は、カニ殻の成分をキチンと加水分解物を超微細繊維として抽出したもの。従来のキチン粉末は分散性や配合性に課題があったが、超微細繊維のマリンナノフアイバーは化粧品素材として分散性と配合性が良好。被膜形成力にも優れ、創傷治癒性や人の肌になじみ潤いをもたらす効果や、抗炎症性、抗菌性、養毛効果や毛髪のツヤや指通りを向上させるなどの効能を発揮する。日本触媒はこれらの効果効能を実験データで明確化し、用途に向けた処方を開発し市場を開拓する。

5社とも営業減益

前期 値差縮小、在庫評価損

総合大手5社の石化系部門業績の19年度実績と20年度予想 (単位: 億円)

社名	部門	19年度	20年度(予想)
三菱ケミカルHD	石化	売上高 5,344 営業利益 ▲21	売上高 4,490 営業利益 ▲130
	MMA	売上高 -724 営業利益 -108	売上高 -854 営業利益 -109
旭化成	基盤マテリアル	売上高 2,764 営業利益 243	売上高 2,470 営業利益 260
	マテリアル	売上高 -1,124 営業利益 -701	売上高 -155 営業利益 +22
住友化学	石油化学	売上高 3,350 営業利益 266	売上高 未定 営業利益 未定
	マテリアル	売上高 -647 営業利益 -265	売上高 未定 営業利益 未定
三井化学	石油化学	売上高 6,569 営業利益 145	売上高 未定 営業利益 未定
	マテリアル	売上高 -1,006 営業利益 -471	売上高 未定 営業利益 未定
東ソー	基盤素材	売上高 6,169 営業利益 87	売上高 5,000 営業利益 ▲115
	基盤素材	売上高 -996 営業利益 -191	売上高 -1,274 営業利益 -202
	石油化学	売上高 1,591 営業利益 103	売上高 未定 営業利益 未定
	クロール・アルカリ	売上高 -248 営業利益 -31	売上高 未定 営業利益 未定
	クロール・アルカリ	売上高 2,974 営業利益 282	売上高 未定 営業利益 未定
	クロール・アルカリ	売上高 -400 営業利益 -178	売上高 未定 営業利益 未定

注) 下段は前期比増減。営業利益欄の▲は損失。三菱ケミカルHD、住友化学、三井化学の20年度予想は国際会計基準、売上高欄は売上収益、営業利益欄はコア営業利益

総合化学5社の石油化学系事業部門の19年度業績は、全部門とも前年同期比で営業減益となった。昨年来の米中貿易摩擦や世界的な経済減速、自動車生産台数減少などの影響に、今年に入って在庫評価損が膨らんだ。

三菱ケミカルHDは、拡大の影響が重なり、石化製品の需要が軒並み減少、需給緩和によりスプレッド(原料との値差)も縮小した。19年度平均の国産ナフサ価格は、19年度平均アジア価格は1ト1631円(18年度は1ト1631円)で、在庫評価損が膨らんだ。

赤字(前期は6億685万円の黒字)だった。東ソーのクロール・アルカリ部門の営業利益は39億の282億円。原料安による塩ビの値差拡大が寄与したが、ウレタン原料やカゼインの価格下落による値差縮小、南陽事業所での動力コストの大幅増、原料による在庫評価損の拡大が響いた。石化部門の営業利益は23%減の103億円。利益率の高いクロール・アルカリなど機能性ポリマーの販売減が主な要因。原料安でポリマー製品の値差は改善した。

旭化成の基盤マテリアル部門の営業利益は50%減の266億円となった。水鳥のナフサクラックの2社以外は「未定」。旭化成は「業績予想が最も難しいのは基盤マテリアル事業。汎用の製品はパルクリエーションが長く、末端の需要の動きが加工メーカーにどう影響するか読みにくい(柴田豊副社長)とした。自動車生産台数の回復時期などがポイントになる。原料価格動向も不透明感が強い。4~6月期の国産ナフサ価格は2万円台(1~3月期は4万4800円)へ大幅に下落する見通しで、在庫評価損が膨らむのは必至だ。三菱化学は20年度平均の国産ナフサ価格2万3300円を前提に、基盤素材部門のコア営業利益が115億円の赤字、19年度は87億円の黒字になることを前提とした。

THE KAITEKI COMPANY 三菱ケミカルホールディングスグループ



「もっと夢を実現できないか。」
「もっと世の中を豊かにできないか。」
あふれる想いが、三菱ケミカルを動かしていきます。人と社会と地球環境のより良い関係を創るために、私たちにできることはまだまだ沢山あるはずだから。さらなる高みをめざし、まだ見ぬ景色を求め、三菱ケミカルは化学の力で世界を丁寧に育てていきます。

三菱ケミカル株式会社

www.m-chemical.co.jp



情熱と探求こそが、新しい明日をひらく。

住友化学